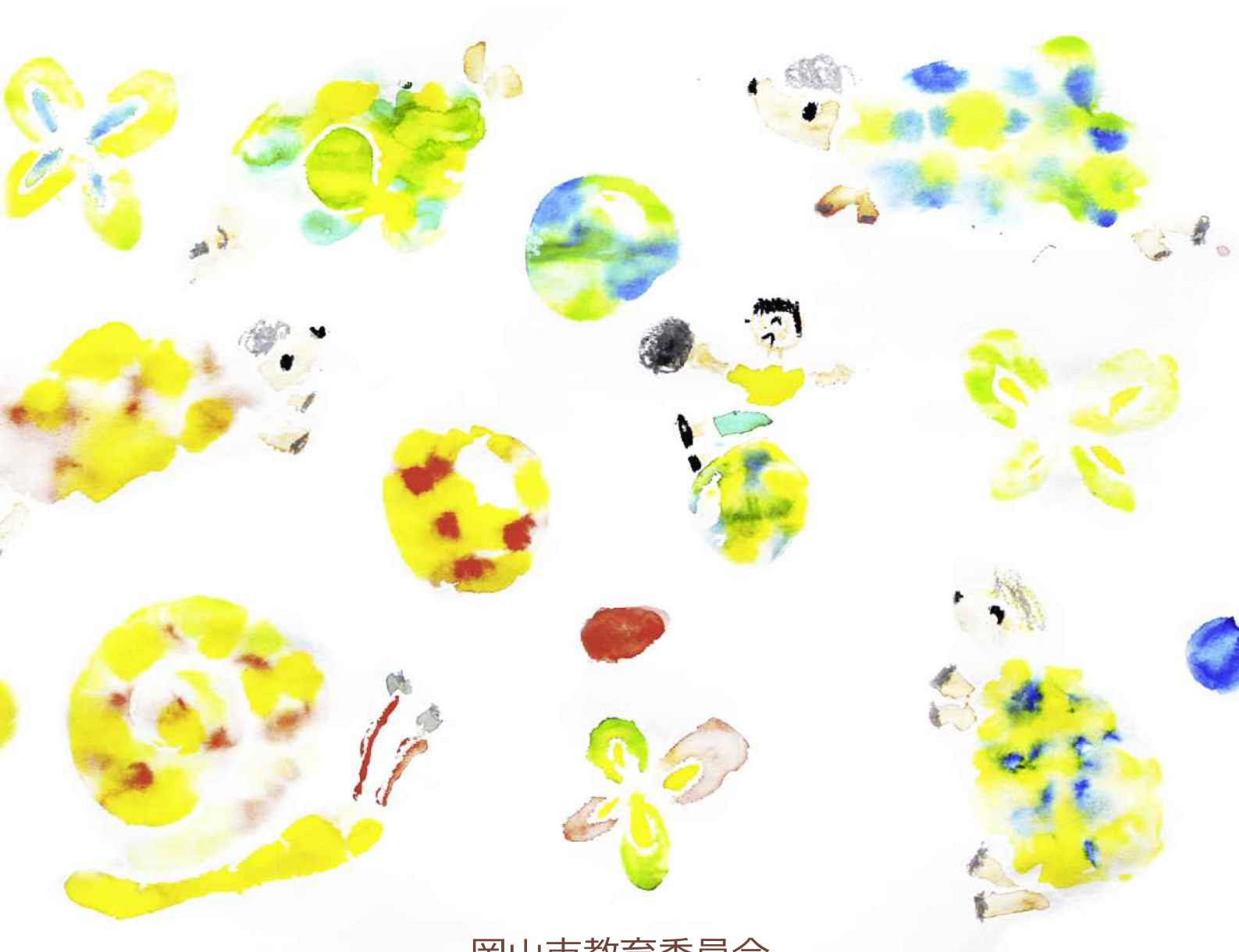


ESDってなんだ?

—はじめてESDを実践する先生のために—





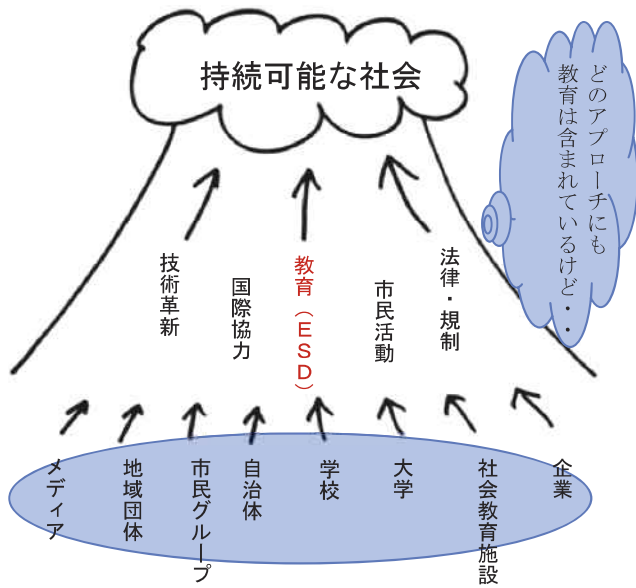
この冊子のねらい

この冊子は、小・中学校の先生が初めてESDに取り組むときに押さえておきたいポイントをまとめた基礎編です。
初めてESDに取り組む方はもちろん、すでにESDについての実践を行っている先生も今までの取組を振り返る際にご活用ください。

ESDって何?

ESDは持続可能な社会を築くことができる人を育てること

ESDは「持続可能な社会の実現 (Sustainable Development)」を目指す社会運動の、教育からのアプローチです。



プロセスが大事

人類が今まで目指したことがないことを目標にして取り組むのですから、これが正解というものはありません。学びと実践のプロセスそのものがESDだとも言えます。

ESDに教科書はないんだね。

ESDは教育の関係付けと再方向付け

日本では、既に行われている教育や社会活動と重なる部分も多いので、どこが違うのか困惑されることもあります。学校においては、(新しく)何をするかよりも、「持続可能な社会づくり」という人類共通の目標に照らして様々な教育活動を関係付け、再方向付けすることが大切です。

ESDに取り組むわけ

現代社会の持続不可能性と教育

産業革命以来の大量生産・大量消費・大量廃棄といった社会経済システムは、大きく転換を迫られています。なぜなら人口は増え続けているのに対して資源は有限であり、しかも経済発展のために自ら依って立つ環境を破壊し続けているからです。

この持続不可能性を認識し、社会のあり方を変えていくことができる人が求められています。これまでの価値観や考え方を自ら見直し、行動することができる人を増やしていくことがESDであり、この時代に生まれた私たちの課題です。



電気エネルギーの消費

様々な事象が関係しあっている・・・

「国連ESDの10年」は終わったのでは?

2014年が「国連ESDの10年」の最終年でした。岡山市ではESD世界会議の5つのステークホルダー会合が開かれ、「ユネスコスクール岡山宣言」が採択されました。しかし、ESDはそれで終わりではなく、国連はさらに、「GAP (Global Action Program)」として世界の国や教育機関、NGO、自治体などがESDに取り組んでいく枠組みをつくりました。

また、岡山市は「ローカルコミュニティ」の分野で主導的に取り組み、モデルとなっていくことが期待されています。

※ 「国連ESDの10年」とは、ESDに関する行政機関相互間の緊密な連携を図り、総合的かつ効果的なESDの推進を図る国連の取組 (2005年～2014年) のこと。

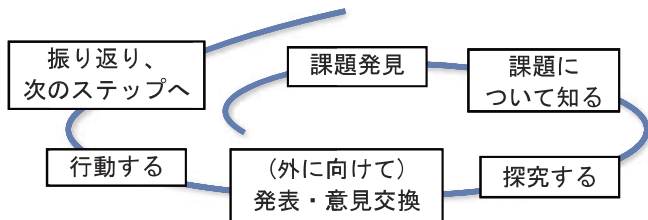
※ ローカルコミュニティとは、ここでは中学校区、区や市などの様々な規模のコミュニティを指す。

ESDのすすめかた

では具体的にどうすればよいのでしょうか。取り組み方のポイントを紹介します。

目標や内容は・・・

- 教育目標と全学年のカリキュラムを俯瞰してみる。
- 「持続可能な社会を築くにはどんな力が必要か」という観点から、特に育てたい力や価値観などを確認する。
※ 国立教育政策研究所リーフレット「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」などを参考に!
- 各学年での学習内容と、学ぶことで身に付く力が、学校で掲げているESDの目標達成に向け、有機的につながっているか確認する。
※ ESDカレンダーを作成するなど
- 子どもたちの身近な問題やことから、持続可能な社会づくりにつながるテーマを選び、探究や課題解決のための学習計画をつくる。
- 発表がゴールではなく、身近な問題を継続的に取り組むことで、学びのスパイラルを深化・発展させる。



- 子どもたちが学校行事などで、人との関わりや問題解決の際、様々な相手と共に学んだり、学び方を学んだりする。
- ※ 学校全体で取り組むこと（ホールスクールアプローチ）をユネスコは推奨しています。



地域の農業を知る

どのように学ぶかも大事

- **学び方を学ぶ**
ESDは特定の教科やどこかの学年でやればいいというものではありません。子どもたちが学校を卒業したあとも、「当たり前のこと」とされているようなことにも疑問をもち、主体的に学び、社会に関わっていくために、学び方を学ぶことが大切です。
- **全ての人が対等に学び合う**
大人が答えを知っていて子どもに「教える」ではなく、大人も子どもも共に学び、共に未来を創っていく気持ちで取り組みたいものです。
- **他人ごとを自分ごとへ**
知識を得られても行動を変えるのは難しいことです。課題が「自分ごと」となり主体的に行動できるようになるよう、参加体験型の学習を取り入れましょう。

交流・連携・協力しよう

- **学校間で、地域と、世界と・・・**
どんなときも、多様性を認め合い、学び合い、協力し合うことが大切です。学校内、学校間はもちろん、地域、世界との連携・協力により、視野が広がり大人も子どもも共に成長します。ユネスコスクールは交流し、学び合い、協働する世界のネットワークです。
- **公民館や大学、市民団体、行政との連携**
岡山市には2005年からESDに取り組んできた蓄積があります。2015年からは文部科学省のコンソーシアム事業により、学校と地域が協働する仕組みづくりも始まりました。地域や世界の課題解決に取り組む仲間として、地元の公民館や大学、市民団体、行政などと、経験や資源を共有し、連携してESDを進めましょう。

「ESDメガネ」をかけてみよう

よく言われる「ESDの視点」ってこんなメガネです。かけると今までバラバラにやっていた活動が繋がってみえてきたり、新たな方向性がみえてきたりします。

学習活動を考える時のヒント

- **根源的で本質的な問いを持つ。**
この活動は「何のためにやっているのか？」という問い直しが必要です。活動を様々な方向から問い直すことが学習活動の充実につながります。
- **時間的、空間的に俯瞰する**
現在だけでなく、過去はどうだったか、未来はどうなるのかと考えてみます。（たまには百年、千年、一万年単位で！）
また、他の地域のこと、外国のこと、地球全体のことも考えてみましょう。
- **地域は変化の最前線**
地球規模の問題も、自分の住んでいる地域で起きていることがきっかけになっていることがあります。自分の住んでいる地域と世界のつながりを考えながら取り組みましょう。
- **多様な立場、切り口から考える**
自分たちだけでなく、小さな子どもや高齢者、障害のある人、外国籍の人、生き物など、多様な立場から考えてみることで複眼的な思考を養います。
また、エネルギー、食糧、水など、さまざまな切り口から世の中を見てみましょう。
- **つながりを考える**
誰もが誰かと支え合っていること、すべての物事は関係があるということに気付くことが大切です。つながっているから、自分が変われば世界も変わると思えることが大切です。



希望を持ち続けることができる人を育てたい

現実には、知れば知るほど複雑で、解決への道は困難です。しかし、それでも希望のあかりを灯し続けることができる人に育ってほしいものです。その希望があればこそ、立場の違う人とも一緒に困難を乗り越えていけるでしょう。

助け合う力、多くのものに支えられていることに感謝できる感性、自分もまた誰かを支えているのだと思える喜びが育つ学校でありたいものです。



ESDプロジェクトのサンプル

☆岡山市内のある中学校区をモデルに、ESDプロジェクトを展開してみます。どんなところがESDプロジェクトなのか、どうすればよりESDとして深化するのか、一緒に考えてみましょう！

- ・このESDプロジェクトは**架空のA中学校区の実情に沿って企画**されたものであり、ESDとして模範的なモデルを示すことを意図したものではありません。
- ・吹き出しは、**ESDを“初めて実践する”学校を想定**したものです。

◎ESDの基本的な理念を踏まえながら、それぞれの地域の特性、子どもの発達課題や教育環境などに柔軟に対応していくこと、かつ、常にプログラムを見直していくことが望ましいでしょう。

📖例えば、校内の研修などで、このサンプルを素材に各学校の状況と比較対照したり、ディスカッションの題材にしたりしてもよいでしょう。

※青い吹き出しのコメント (◎印)・・・ESDとして評価できる内容

※赤い吹き出しのコメント (▲印)・・・ESDとして改善すべき内容 を意味しています。

【ESDプロジェクトの背景】

★A中学校区の特徴と課題

- ・急速な市街化による自然環境の悪化
- ・少子高齢化
- ・外国籍、ミックスルーツ、障害のある人など多様な背景の住民の増加
 - ※ ミックスルーツとは、文化的なアイデンティティを複数持つこと
- ・失われつつある地域の絆
- ・海拔が低く、不十分な防災対策

地域の人同士、そして自然とのつながりを取り戻していきたいね！



★学校の課題

- ・確かな学力の定着
- ・子どもが落ち着いて授業を受けられる学校環境づくり
- ・子どもの学ぶ意欲の向上と問題行動
- ・いじめや不登校

子どもたちが地域の自然や人ともっと豊かな触れ合いを持ち、コミュニケーションする中で、持続可能な社会をつくる力を付けていってほしいね！



①全小中学校で従来の取組を**ESDの視点で見直す**。

②地域全体で、“子どもたちの社会参画の力を育み、未来に希望をもてる”学習体験を支えるために、様々な団体との**協働体制をつくっていく**。

【A中学校区ESDプロジェクトの始め方】

- ・地域の特色と課題及び子どもたちの発達課題を踏まえて、ESDで付けたい力＝「A中学校区ESDプロジェクトのねらい」を検討。

※ESDにおいて求められている能力や価値観との関連を明確に。

- ・各学校の教育目標・めざす子ども像を再検討し、ESDを適切に位置付ける。

- ・その上で、**現在の学校と地域の特徴的な教育活動をベースに**、「環境」と「福祉・平和」の2つの切り口でESDプロジェクトを構成する。

※学年間、各教科間、プロジェクト間の学びのつながりを意識して

【ESDプロジェクトの活動方針】

そこでA中学校区では、子どもたちと家庭と地域社会とのつながりを強め、持続可能な社会づくりに向けて参画し、行動できる力を付けて行くために、公民館をはじめとする**地域の様々な機関と連携・協働**し、ESDを実践する。



【A中学校区ESDプロジェクトのねらい】

※A中学校区では、国立教育政策研究所（以下、「国研」と言う）が、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の例」として挙げた次の7つの力を参考にして計画を立てています。

- ①批判的に考える力
- ②未来像を予測して計画を立てる力
- ③多面的、総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する態度
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度（※以下の○数字と連動しています。）

★B小学校6年間＝「ESDで求められる力と価値観の萌芽期」と捉える。

小学校低学年 ESDの入口として、まず身近な環境・社会・文化に触れることを大切にす
る。各教科・領域をはじめとする教育活動全体で以下の能力・態度を養う。

- 1) 地域の自然や伝統文化に対する愛着・・・⑥
- 2) 自らの暮らしと社会、人々、環境などに広く関心をもち理解する・・・③
- 3) 相手の立場に立って考える力・・・④



小学校中学年 **他の地域や我が国全体の状況と福祉に対する理解を深めていく。**

その中で、特に以下の能力・態度を養う。

- 1) 地域社会を多角的に捉える力・・・③
- 2) 多様な人々との共生社会（未来）を描く力・・・②



小学校高学年 協働的な解決の体験を通じて**異文化や国際社会に対する基礎的事項への理解を深める。**その中で、特に以下の能力・態度・価値観を養う。

- 1) 持続可能性の視点（環境の有限性、責任性や公平性）と思考力・・・①・②
- 2) 平和・福祉社会構築の価値観と当事者意識・・・⑥・⑦

★A中学校3年間＝「持続可能な社会の価値観と課題に対する理解を深め、当事者意識を高める**発展期**」と捉える。

中学校第1学年 **共生社会に向けた視点を養う経験**の中で、主に以下の能力・態度を養う。

- 1) 自らの暮らす環境を多角的に捉える力・・・③・⑥
- 2) 身近な人権問題に対する当事者意識・・・⑤・⑦

中学校第2学年 **地球規模の視点で自らの国・地域の状況や歴史を理解する**学びの中で、主に以下の能力・態度を養う。

- 1) 社会に主体的に参画する力・・・④・⑦
- 2) 周囲の環境や自然に対するより高度な理解・・・①・③

中学校第3学年 多様なコミュニケーションを伴う**具体的な社会参画の経験**の中で、主に以下の能力・態度・価値観を養う。

- 1) 全ての命を尊ぶ価値観と態度・・・⑥
- 2) 持続可能な社会づくりに向けた自分なりのヴィジョン・・・①・②
- 3) 自らの将来と結び付けて考える力と行動力・・・②・④





B 小学校 ESDプロジェクト

【学校教育目標】見直し前→「心をつなぎ 高め合いながら 自分らしく輝く子どもの育成」
【プロジェクトテーマ】「人・自然・世界とのつながりを大切に、地域で行動する子どもの育成」

P①「ふるさとの自然と暮らしを大切にしよう」 P②「みんなにやさしいまち・平和な世界をつくろう」

学年	科目	学 習 内 容	協働
1年	国語 生活 図工	<p>P②「むかしあそびをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の自然に触れ、好きな素材を見つけて（生活）。 地域の高齢者から伝統的な遊びについて学び、リサイクル素材を使った伝統的なおもちゃ等を制作する（図工）。 伝統的なおもちゃを使って伝統的な遊びをする（生活）。 気持ちの伝えかたや表現について学んだことを基に、身近な季節の素材、リサイクル素材などを使い、高齢者へのお礼状を書く（図工・国語）。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の祖父母ら 公民館
2年	国語 生活	<p>P①「おいもパーティーを開こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物の栽培方法を学び、それに基づいてサツマイモの育て方を調べ、図表にまとめる（生活）。 学区内の畑の状況を調査（まちたんけん）した上で、JAや地域の農家の方の協力を得て、畑にサツマイモを植える（生活）。 説明文を書くための基礎を学ぶ（国語）。 昔の暮らしや食生活について調べ、資料を用いて発表する（生活）。 地域の人と収穫したイモを調理して食べる会を企画する（生活）。 昔の生活に関して調査した内容や感想、提案について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農家の方 JA
3年	国語 社会 理科 総合	<p>P①「ふるさと発見～自然や史跡を探る～」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級園の草花の観察を通じて、観察の方法などを学ぶ（理科）。 里山に関する話などを読み、人と自然との関わりについて興味や関心を高める（国語）。 学区内の自然観察を行い、地域固有の植物の群生について調査する。地域の自然環境を知り、自分たちができることを考えて発表する（総合）。 学区内の神社の歴史や由来・故事について、地域の人にインタビューを行う。神社と地域との関わりについてまとめ、地域に向けて発表する（社会・総合）。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然保護センター A神社宮司 公民館
4年	国語 社会 図工 総合	<p>P②「みんなにやさしい町づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> 点字をテーマとする文章を読み、点字やユニバーサルデザインに関わる基礎的な知識を得る（国語）。 町を客観的に捉える際に必要となる地理の基礎的な知識を学ぶ（社会）。 学区内の様々な設備や表示を調査し、障害疑似体験をする（総合）。 学区内の改善箇所についてデイスカッションを行い、弱い立場にある 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉施設

◎子どもたちを主体とした学びのストーリーを考え、各教科・領域の学習内容がつながるように工夫しています。

◎第1学年で「季節」や「生活」に触れて考えたことや経験を基に、国語の内容を関連付けています。

▲例えば学習内容を地域の方と一緒に考え、生活科で調査した内容を共有する等、学び合いの契機するとよいでしょう。

◎低学年で身の回りの自然や昔ながらの暮らしに親しんだ経験に関連していきます。人と自然・社会との関わりをより大きな範囲「町」・「歴史（過去）」へと拡大させていっていきます。

▲提案して終了するのではなく、例えば校内の環境改善など、学校生活の中で日常的にできる身近なことから始め、当事者意識を高めていくことが大切でしょう。

◎学校教育目標・目指す児童像をESDの視点で見直してみましょう。

▲単に遊んだことへのお礼を書きただけではなく、ここで季節や素材を考え、更には自らの遊び（や生活）のあり方を振り返り、昔と比較して考えることを学ぶことも考えられます。

▲子どもたちがなぜサツマイモを育てるのか、動機付けが大切です。例えばサツマイモが日本に伝わった経緯や歴史なども調べる etc.

▲発表する場を学校内に留めず、公民館などに広げていくことも可能です。

◎理科や国語で観察・報告の基礎を学び、総合的な学習の時間で応用したフィールドワークを行うことができますようにしています。

▲子ども自身が自分なりの「問い」をもって調査を行うことが重要です。

◎国語・社会での学習内容と総合的な学習の時間でのフィールドワークが関連付けられています。

◎これまでの地域の、自然環境との関わりや経験と学びをベースに、持続可能性の課題に引き付けながら展開する学習になっています。



◎各教科での学習と結び付くよう工夫されています。持続可能な社会づくりに向けた力を高めていて、いることを子どもたち自身が実感できるようなことが期待できます。

◎様々な地域の活動に主体的に参加し、対話の機会を持つことで、地域・社会の未来と自分の未来を関連付けて考える学習内容としています。

▲地域や家庭・学校内で実際に経験することが大切です。子どもたち自身が計画し、実践し、省察し、再度挑戦するという“試行錯誤の過程”を組み込むことができるとよいでしょう。

人々も含め、誰もが安心して暮らせる町について考える。それらを提案書としてまとめ、区役所に提出する（総合）。

- ・標識やデザインに関して学習し、みんなに優しい町づくりに向けた工作などを行う（図工）。

P①「ふるさとの環境を守る」

- ・気候や河川に関する基礎的な内容について学び、自らの暮らす国と地域を俯瞰するとともに地理的状況や気候風土などの基礎知識と技能を習得する（社会）。
- ・高校生と一緒に水質調査を行い、自らの地域の環境に関する疑問や関心を共有する（社会・理科）。
- ・気候変動や災害、水に関する持続可能性の課題についても知識を習得する（理科）。
- ・低学年でサツマイモを栽培した経験や、我が国の食料生産に関する学習を基に、米作りや米の文化について調べ学習を行う（社会）。
- ・田植えや稲刈り体験を行い、育てた米を皆で食べる（総合）。
- ・夏季休業中に食生活や身の回りの環境について各自でテーマを設定した調査を行い、まとめる（課外）。
- ・夏季休業中にまとめた内容と、我が国の食糧自給率や世界の食糧生産の状況を比較する。その際、算数で学習した平均値の求め方やグラフの書き方などを活用する（社会・算数）。今後の食料生産や持続可能な消費のあり方の課題を考え、学校内で取り組めることを考えて、実践する（総合）。
- ・啓発ポスターや作文・新聞づくりを通じて、地域に向けて考えたことを発信する（総合）。

- ・地域の農家
 - ・◎◎高校生の生徒
- 【水質調査】
- ・J A

▲知識を習得することは大切ですが、その知識が関連付けられるよう、地域の地理や気候風土を体感するようなフィールドワークを組み込んでいくことも可能です。

◎異年齢の子どもたち同士が学び合う場面を積極的に取り入れています。

◎子どもたちの主体的な学びを大切にしています。

▲ESDとして子どもたちから「発信」する意義をよく考える必要があるでしょう。例えば、他のユネスコスクール加盟校と意見交換などを行うことが考えられます。

▲6年間の学びの道筋やつながりが明らかになるような、プロジェクトの成果を積み重ねていくポートフォリオなどがあるとういでしょう。

◎修学旅行なども、地域を見る視点を養うESDのフィールドワークの場として設定しています。



- ・観光センター
- ・公民館

- P①&②「地域の未来に貢献しよう」**
- ・急速な少子高齢化について知識と理解を深める。自らの生活や地域との関連性を理解する（社会）。
 - ・町の特徴を伝える方法を学び、地域を見つめる視点を養う（総合）。
 - ・ドイツのカツションの方法についての基礎を理解する（国語）。
 - ・第4学年のバリアフリーに関する学習を振り返る。それを踏まえ、この地域の未来に向けて自分たちに実践できることを考え、第5学年や地域の人を交えた報告会で意見交換した人々のことを調べたり、直接インタビューを行ったりする（総合）。
 - ・修学旅行を通じて、それぞれの地域の特徴や多様性に対する関心を高め、自らの地域を捉える視点を養う（特活）。
 - ・平和を題材とした読み物を読み、平和な未来について考えをまとめる。他者に正しく伝える記事や意見を表現するための基礎を学ぶ（国語）。
 - ・これまでの実践を振り返り、「持続可能な社会づくりに取り組む」として将来にわたり自分が実践したいことをまとめ、発信する（総合）。

社会
算数
理科
総合

5年

国語
社会
総合
特活

6年



【学校教育目標】「全ての命を尊重する社会に向けて、自ら学び、他者と共に学び、地域に学ぶ生徒の育成」
【プロジェクトテーマ】

A中学校 ESDプロジェクト
【プロジェクトテーマ】
P①私たちの地域を持続可能にー環境と経済を考える P②平和に向けてA中学校から世界へー小さなアクションを起こそう！

学年	科目	学習内容	協働
1年	美術 総合 学活 課外	<p>P②「身近な問題から平和と福祉を考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」をテーマに、人権に関わる基本的事項について理解を深める（学活）。 ・いじめに関する作文を書く（学活）。 ・いじめをなくすためのポスターを制作する（美術）。 ・国内外でのいじめに対する中学生の取組について、調べ学習を行い、校内で共有する（総合）。 ・世界の様々な地域の文化について学び、夏期休業中にグループごとに更に調査して、まとめる（課外）。 ・盲学校の生徒と交流し、ユニバーサルデザインについて講師の話を聞いたり、実際にデザインを考えたりする（総合）。 ・これらの学習に基づき、『多様な背景を持つ人々が共に暮らす社会づくり』を考え、地域にフィールドワークに出かけ、様々な施設などで調査を行う（総合）。 ・結果をまとめたものを地域の公民館で展示する（課外）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館 ・盲学校 ・ユニバーサルデザイン専門家 ・社会福祉協議会 ・地域の公共施設
2年	社会 総合 課外	<p>P①「公正・公平な未来の社会づくりに向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島研修に向けて準備を進める（総合）。 ・太平洋戦争に関する基礎的な事項を確認した上で、インタビューや調査を行い、レポートにまとめる（社会・総合）。 ・広島研修での学び、感想などをまとめて共有し、英語でメッセージを作成する。ビデオ・HP・新聞などの形式で発信する（総合）。 ・公民館と連携し、地域の環境保全活動や防災活動に参加し、関わる人から話を聞いたり共にマップづくりに取り組みたりする（課外）。 ・職場体験に向け、地域の企業について調べ学習を進める（総合）。 ・環境や経済、文化の持続可能性の課題と地域及び企業との関わりについて考察を深める（総合）。 ・職場体験で学んだことをレポート等にとまとめ、地域イベント「地域ふれあい餅つき」で発表・報告する（課外）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争を語り継ぐ会の方 ・公民館 ・環境保全課 ・地域の企業各社
3年	保体 家庭 総合	<p>P①&②「全ての命を大切に育む社会へ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域住民と協力し、学区の水路のクリーン作戦を行う。事前調査とフォロワーアップ会合を開き、課題を明らかにする（総合）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA ・B小学校 ・◎◎高校【水質調査】

▲障害者との交流はESDとして有意義な学習機会ですが、事前・事後の学習プロセスが大切です。生徒一人一人の障害に対する認識の差異を踏まえ、一方的な交流や啓蒙活動だけに終わらぬよう、対話の方法などを工夫する必要があります。

◎公民館と連携する第一歩で、成果発表の場として活用しています。その際、地域の方からのコメントを頂くなど、双方向のコミュニケーションがもてるよう工夫するとさらに良いでしょう。

◎広島研修・職場体験をESDの視点をもち展開しています。生徒自身が環境と経済・文化そして平和との関係性を認識して2つの研修に臨み、経験を振り返ることができるよう、事前・事後の学習が計画されています。

◎「いじめ」という中学生にとって深刻な問題を扱い、そこから異文化理解・障害者理解などに学習をつなげていきます。平和と福祉の問題を関連付けていきます。

▲例えば、地域に住む外国人や、留学生などに実際に会おう場を設け、具体的な体験活動を行うことも大事です。

▲ESDとしては、ただ英訳することではなく、生徒自身が伝えたいメッセージの相手（場）をイメージしていること（発信する意義のある活動であること）が大切です。

◎まずは公民館の既存の活動を一緒に行うことから始めていきます。生徒自身の様々な気付きを大切に、大人も一緒に学び合う場にしていくことが大切です。

◎1年ごとのプロジェクトではなく、第1学年・第2学年での学びを活かすとともに、関連性を意識し、2つのプロジェクトを融合することで、3年間のESDの集大成となることを意識しています。



▲ESDとして、「命について考える」授業が恒例行事として行われるのではなく、生徒が企画の段階から参画し、保健所や愛育委員などの地域の方と学び合う契機にすることで、学習が深まります。

◎全学年での取組が、地域で共有されるだけでなく、他地域のユネスコスクールとの交流を通して、相互に学び、実践が深化していくことが期待できます。海外に向けて発信していくこともESDとして意味のあることとしていこう。

- ・生物の育成環境に関する学習を元に、豊かで便利な生活と持続可能な性の課題を結びつけて考えた上で、循環型の掃除道具の制作に取り組む(総合)。
- ・クリーン作戦の結果に基づき、学区内のゴミ拾いなどを地域のボランティア・保護者と共に行う。ゴミと自らの暮らしと結び付けて考えるように促し、課題を明確にする(総合)。
- ・地域の人を招いての「餅つきイベント」を第3学年の生徒が中心となつて企画・運営する(特活)。
- ・啓発ポスター・新聞づくり・標語などの学習成果を公民館・まつりで紹介する(課外)。
- ・「命について考える」授業で、赤ちやんとその母親を招き、触れ合い活動を行うとともに、命についての講演を聴く(保体・家庭・学活の合科的な扱い)。
- ・国際社会において平和構築に貢献する団体や人に関して学ぶ。国際平和に対する意見や思いを英語でまとめる(総合)。
- ・3年間のプロジェクトを振り返り、未来の自分と持続可能な社会づくりについて考え、ポートフォリオをまとめる(総合)。

「防災キャンプ」

- ・地域の公民館での防災キャンプに参加する。
- ・その経験を元に防災マップづくりに取り組む。
- ・マップは校内だけでなく、地域ふれあい餅つきで掲示したり、公民館で掲示したりする(課外)。

「地域ふれあい餅つき」

- ・地域の特産品を使って地域の人々と一緒に餅つきを行う。
- ・クリーン作戦や防災キャンプ、職場体験を通じて来て来た地域の課題や、命について考える授業や沖繩修学旅行で学んだことなど、これまでのESDの学習の成果発表を行う(課外)。

「世界に発信しよう！」

- ・クリーン作戦、防災キャンプ、命を考える授業、餅つきなどの授業を記録に残し、成果をまとめ、ALITや地域のポランティアの方などの協力を得て、生徒代表グループが英語のホームページを通じて発信する(課外)。

※今後は他地域のユネスコスクールと交流を始め、世界へ向けて生徒のメッセージを発信したり、オンラインや動画交換などで見えを交換したりしていく。

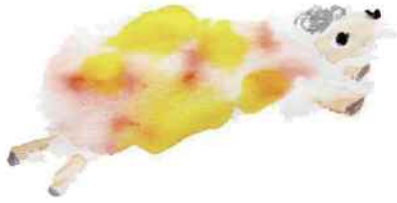
- ・愛育委員
- ・保健所
- ・J A
- ・婦人会をはじめとする地域団体【餅つきイベント】

公民館のサークル団体【餅つきグループ】【英語を学ぶグループ】
公民館でITを学ぶ講座グループ(HPづくり)

▲クリーン作戦の経験を通じて、ゴミと自らの暮らしとの関連性を考え、啓発活動を行うというプロセスが予め設定されています。
※ESDでは、最初から1つの答えを用意するのではなく、体験の中で学習者自身と協働を促す学習が大切で、協働を促す学習が大切です。例えば、生徒自身が「A学区のゴミはなぜ減らないのか」といった問いを立て、皆で解決策を探るという方法もあります。ESDは生涯学習であり、失敗や葛藤も重要な学習の契機であることを念頭に置きましょう。

◎様々なテーマで活動を行う地域の公民館のグループと協働的にプロジェクトを進めています。
また、防災キャンプの成果を学校外でも共有したり、地域ふれあい餅つきでも普段の学習を積極的に共有したりすることで、地域との連携を深め、学び合う契機としています。





ESD実践者の声

ESDに取り組んでみての感想やどんな変化があったかについて、3校の先生方にお話を伺いました。



岡山市立東疇小学校

井上 央江 主幹教諭

本校は、昨年ユネスコスクールに認定されたばかりで、担当になった自分も含めて職員にESDについての考え方が浸透していないのが現状だった。

そこで、校内研修会を企画し、コーディネーターと一緒に、総合的な学習の時間や生活科を中心に、「この活動で子どもたちにつけたい力はどんな力なのか」という視点で内容を見直した。ESDが「特別な学校が取り組んでいる特別なこと」である間は、本当の意味での「いいものは(E)子孫の(S)代まで(D)」に、なっていないのでは?と思っている。



岡山市立
第三藤田小学校

矢吹 憲策 校長(右)
板倉 真由美 教諭(左)

【ESDの学びとは?】矢吹校長

第1学年から第6学年まで、一連のプロジェクト学習でESD教育を推進してきている。評価については論議がなされているところだが、ESDの学びとは、数字ではあわせない、優劣のつけられない、目には見えない大切なものと実感している。

また、ESDとは、何も特別なプロジェクトを行うことではなく、地域のそれぞれの個性に目を向ければ、自ずと見えてくるものであり、地域柄(性)を大切にしながら本校でも取り組んできている。

【児童、教員の変容は?】板倉教諭

児童

地域学習を通して、地域とつながりができ、地域が身近に感じられるようになり、親近感・安心感を生んでいる。また、カンボジアの子どもたちとの交流を通して、お互いの存在をより身近に感じることができるようになり、何か役に立ちたいという気持ちが生まれるようになった。これらの学習を通して、自分のことや身近な人、自分の住んでいる地域のことを見つめ直し、自分とのつながりを意識できるようになってきた。

教員

教員同士や、地域の方々とのつながりがより強くなったと感じる。また、専門家の方々から学ぶことができる機会があることはありがたい。取組が軌道に乗ってきて、「楽しい」と感じられるようになった。



岡山市立
京山中学校

廣畑 浩 教諭(右)
竹島 潤 教諭(左)

【ESD推進のきっかけと取組は?】

当初、「開発」の意味が、環境破壊や汚染を招くというイメージで戸惑ったが、研修への参加や教科横断型の授業の取組を通して、「開発」の意味をとらえなおし、つながりの大切さに気付いた。意味を理解してからは、ESDの視点で教科を超えて話し合いをし、国語と美術、数学と理科、英語と美術と社会など、連携して授業を行っている。

【どんな変化が?】

生徒

- ・コミュニケーションを大切にし、つながろうとする様子がうかがえるようになった。
- ・学級や委員会、地域でのボランティア活動の中で積極的に行動できる様子が見えてきた。

教員

- ・授業をESDの視点で見直すことで、社会で求められる人間として、生徒にどんな力を付けたいかということを強く意識するようになった。
- ・ESDの視点で議論が楽しく、教員を志した頃のような熱い想いを呼び起こされたように思う。
- ・以前は他の教科には踏み込めなかったが、ESDで教科の垣根がなくなった。
- ・教員同士あるいは教員と地域がつながることができた実感する。

参考WEBサイト

- ・文部科学省
(ESDポータルサイト)
(ユネスコスクール公式ウェブサイト)
- ・国立教育政策研究所
(ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み)
- ・岡山ESDプロジェクト

ESDってなんだ?

—はじめてESDを実践する先生のために—

発行日: 2016年3月

企画制作: 片岡雅子 柴川弘子 原明子

(グローバル人材の育成に向けた地域と協働した
岡山型ESD推進事業ESDコーディネーター)

発行: 岡山市教育委員会

※表紙および挿絵は、岡山市立三軒小学校児童の作品を使用
させていただきました。

※無断での転載・複製・転用・編集を禁じます。